



[公財] 日本太鼓財団

NIPPON TAIKO FOUNDATION

会報

発行・編集 2017年 5月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

公益財団法人日本太鼓財団 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL: <http://www.nippon-taiko.or.jp> Email: info@nippon-taiko.or.jp

「和太鼓たぎり」が552チームの頂点に立ち初の栄冠に輝く！！

第19回日本太鼓ジュニアコンクール



(選手宣誓:「東京都立白鷗高等学校和太鼓部」
鈴木大貴さん)

3月19日(日)、日本太鼓財団主催、兵庫県支部主管により第19回日本太鼓ジュニアコンクールを兵庫県神戸市の神戸国際会館こくさいホールにおいて満員となる2,200名のお客様を前に開催いたしました。

内閣総理大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞を目指して全国37都道府県(予選実施40支部479チーム5,045名、支部推薦1チーム)及び2地区から選抜された54チーム622名(最年少6歳、出場者平均年齢13.87歳)に加え、ブラジルチーム11名(予選14団体139名参加)、台湾チーム11名(予選29団体322名参加)の総勢665名が出場しました。さらに前年度優勝チーム「手取亢龍若鮎組」(石川・11名)、アルゼンチンから「アカスーソ太鼓」(10名)が特別出演として参加いたしました。

開会式は、優勝旗を手にした前年度の優勝チーム「手取亢龍若鮎組」、アルゼンチンの「アカスーソ太鼓」、ブラジルの優勝チーム「源流太鼓」、台湾の優勝チーム「葫蘆墩Smile太鼓團」が中央に並び、全チームが整列して行われました。

国歌斉唱に続き、日本太鼓財団塩見和子理事長、兵庫県小畑由起夫知事室長、日本太鼓財団兵庫県支部桂正静支部長が挨拶。そして、「手取亢龍若鮎組」より優勝旗並びに優勝杯が返還され、優勝杯レプリカと長胴太鼓が贈呈されました。

続いて抽選で出演順1番目となった東京都代表「東京都立白鷗高等学校和太鼓部」の鈴木大貴さんが、選手宣誓を行い、次いで長谷川副会長による初っ切

り太鼓が演奏され、いよいよコンクールが幕を開けました。出場56チームは、大会要領に基づき長谷川副会長作曲による課題曲「和～未来へ」と自由曲を5分以内で演奏しました。各チームの演奏が終わる度に、満員のお客様より心からの拍手と声援が送られました。

56チームの演奏の後、アルゼンチンの「アカスーソ太鼓」、前回優勝した「手取亢龍若鮎組」が特別演奏を披露し、全ての演奏が終了しました。閉会式では、審査委員の渡辺貞夫氏から講評と塩見審査委員長より総評があった後、結果が発表され、「和太鼓たぎり」(福岡)が栄えある内閣総理大臣賞に輝きました。

優勝チームが発表された瞬間、会場の張り詰めた空気が一転し、割れんばかりの拍手が沸き起こりました。

「和太鼓たぎり」は、11歳から18歳までの15人で構成されたチームで、植田代表の下、練習を積み重ね、初の優勝に輝きました。また、「輪島・和太鼓虎之介」(石川)が第2位となり総務大臣賞を受賞。第3位には「橘太鼓響座『一』」(宮崎)が文部科学大臣賞を受賞しました。「葫蘆墩Smile太鼓團」(台湾)は第4位、「源流太鼓」(ブラジル)は第5位に入賞しました。

出場全チームがこれまでの練習の成果を余すところなく発揮し、共に競い合った一日でした。今回の大会を通じて多くのことを学び、今後の活動に活かしていくことを期待しております。

また今回もインターネットによる全世界生中継を行い、開始直後よりブラジル、アルゼンチンをはじめ海外からも感想などの書き込みが寄せられました。

最後に、審査委員、技術委員の先生方、ご父兄並びにご来場の皆様、そして参加者のために行き届いた心配りをして下さった延べ260名もの兵庫県支部及び、北は北海道から南は九州まで全国から駆け付けて下さったボランティアスタッフに心より感謝とお礼を申し上げます。

第20回大会は、石川県金沢市で開催！

第20回日本太鼓ジュニアコンクールは、来年2018年3月25日(日)、石川県金沢市の「金沢歌劇座」にて開催いたします。

受賞一覧

優勝・内閣総理大臣賞

準優勝・総務大臣賞

第3位・文部科学大臣賞

第4位・兵庫県知事賞

第5位

特別賞 神戸市長賞

神戸市教育委員会教育長賞

兵庫県芸術文化協会賞

NHK神戸放送局長賞

サンテレビ賞

神戸新聞社賞

日の出通商賞

株式会社浅野太鼓楽器店賞

株式会社宮本卯之助商店賞

諏訪響太鼓店賞

ブラジル太鼓協会賞

台湾太鼓協会賞

アルゼンチン太鼓協会賞

国際友好賞(太鼓贈呈)

国際友好賞(太鼓贈呈)

国際友好賞(太鼓贈呈)

和太鼓たぎり(福岡)

輪島・和太鼓 虎之介(石川)

橘太鼓響座「一」(宮崎)

葫蘆墩Smile太鼓團(台湾)

源流太鼓(ブラジル)

熊本市立必由館高等学校和太鼓部(熊本)

火の神乙女太鼓 爽(鹿児島)

日向の国「響」(宮崎)

諫早天満太鼓(長崎)

大和太鼓保存会 鼓天童子(佐賀)

太鼓研修センター「響」(宮崎)

三代目源流少年隊(大分)

和太鼓集団 夢幻の会(香川)

児島瑜伽太鼓(岡山)

ZENKAI太鼓「和」(大分)

諫早天満太鼓(長崎)

和太鼓集団 夢幻の会(香川)

太鼓研修センター「響」(宮崎)

源流太鼓(ブラジル)

葫蘆墩Smile太鼓團(台湾)

アカスーソ太鼓(アルゼンチン)

*優勝した「和太鼓たぎり」(福岡)から感想文をいただきましたので掲載いたします。

「たぎりらしく」

代表 植田 美紀

和太鼓たぎりは今回で3度目の出場です。チーム結成時より、この全国大会の舞台を目指し頑張ってきました。

1年間を通して練習の毎日ですが、辛い事や苦しい事の方が多いと思います。

それでもこの舞台に立ちたいと想う気持ちが子供たちの心をついに結び動かしてきました。

全てが「太鼓が好き」の一言だと思います。

福岡県を代表し、地元地域の皆さんの応援に背中を押され、他団体の皆さんに支えられ「たぎりらしく、泥臭く、我武者羅に」、自分たちの全てを出しきり演奏しました。

そして優勝させていただきましたが、うかれる事なく襟を正し太鼓に向き合わなくてはいけないと思いました。

終了後に塩見理事長より子供たちへ、『あなた達の太鼓が好きと言う気持ちが伝わってきましたよ。これからもその気持ちを忘れずに「たぎり」らしくいてね。』と言葉を頂戴し、太鼓をとおして一番えたかった事ができて嬉しかったです。

今後も「たぎりらしく」太鼓が好き！という気持ちを大切に沢山の人の心を動かすような太鼓を打ち続けてもらいたいと思っています。

全てがあたり前ではなく全てに感謝し、常に初心を忘れずに全て一生懸命に。

ありがとうございました。



(優勝時の演奏)



(表彰式の様子)

全国大会

リーダー 植田 晃太郎(17歳)

和太鼓たぎりにとって全国大会は3回目でした。僕も3回目でした。和太鼓たぎりに3月に卒業する仲間が5人もいて、これが最後の大会になる人がたくさんいました。それはたぎりにとって初めてのことでした。みんな特別な思いで挑み、そして練習を全力でしてきました。

みんな学生なので高校の行事、中学校の行事、小学校の行事があり中々練習にメンバー全員が揃わなかったの、それぞれ不安があったと思いますが何度も話し合いをして気持ちを一つにして大会に挑みました。

大会前日、神戸に着き膝打ちも素振りもできないまま、リハーサルをしました。会場も広く音の聞こえかたも、いつもと違い戸惑いましたが指導してくださっている川原先生が励ましてくれました。そして、ホテルに戻り何度も打ち合わせや膝打ちを繰り返し、自信を取り戻しました。

そして、大会当日になり開会式を終え和太鼓たぎりの順番がくるまでメンバーで素振りを全力でしました。そして、本番間近になり和太鼓たぎり恒例の背中に張り手をメンバー全員が植田会長にってもらい気合いをいれ、演奏しました。それぞれバチを落としたり間違えたりした人がいましたがみんなの演奏が終わった後の顔をみたら、スッキリとしていて全員悔いのない演奏ができて、とてもよかったです。

そして表彰式になり次々と特別賞が呼ばれ、あっという間に優勝が呼ばれる瞬間がきました。「優勝は和太鼓たぎりです」と呼ばれた瞬間、時が止まりました。本当に本当に嬉しかったです。日本一の名に恥じないように、これからも全力で頑張ります。本当にありがとうございました。

審査委員

塩見 和子(財団理事長)*審査委員長
岡田 知之(洗足学園音楽大学名誉教授)
田中久仁明(一社)日本マチングバンド協会理事長
長谷川 義(財団副会長・全九州太鼓連合名誉会長)
藤原 道山(尺八演奏家)
古屋 邦夫(財団技術委員会委員長)
渡辺 貞夫(音楽家) (五十音順・敬称略)

<審査講評>

ジュニアコンクール終了後にとりまとめ、各出演団体に送付いたしました審査講評の要点を以下に抜粋しますので、参考にいただき、今後益々精進されることを期待しております。

<全体>技術の向上が感じられ、チーム間の差が少なく、優劣がつけ難い大会であった。ただ、ここ数年指摘されている演奏に必要なない所作や、しっかりとした音の出せない笛を入れるなど改善の兆しが感じられなかったのは残念だった。

<課題曲>途中の速度変化でリズムが不安定になり、細かい音がバラバラに聞こえるチームが多かった。楽譜上に記載されているテンポや音符を正確に演奏し、音の強弱やバランスなどを工夫すると良い。

<自由曲>4分の時間のなかで色々な表現をしようとした結果、何を表現したいのか理解に苦しむような構成のチームが多かったのは残念。笛に頼るより太鼓で自然な流れになるように工夫して欲しいと感じた。

最高の仲間と勝ちとった優勝

廣木 雅士(15歳)

今回の大会は、和太鼓たぎり一期生で挑む最後の大会であり、自分にとっても最後の大会でした。今までとは違う特別な思いをもって練習、演奏をしました。

練習では15人のメンバーが全員揃うことは少なかったです。でも何度も何度も繰り返し曲を演奏して皆の不安な所をなくしていきました。練習中きつくてとまりたいと思ったこともありました。それでも一緒に頑張っている、ふんばっている仲間がいたことで、最後まで全力でできました。大会前最後の練習の日、このメンバーで大会の練習をするのが最後だと思うと自然と涙がでてきました。

そしてリハーサルの日、和太鼓たぎりは最後でした。練習とは違うステージでの演奏で緊張しました。演奏後には川原先生や植田会長に「泥臭さがない」と言われ、明日はもっと自分も持っている全てを出し切ろうという思いが強まりました。

そして3月19日、むかえた本番当日、ほかのチームが演奏しているなか自分達が最高の状態で演奏ができるように何度も手打ち、素振りをしました。そして舞台裏に行ったとき緊張とともに今までの練習が思い浮かんできて涙が出てきました。演奏が始まるとさっきまでの緊張が消え、自然と笑顔になれました。演奏中、失敗もありました。それでも終わりが近づいてきたとき、もっとこの舞台に立っていたいという気持ちになり演奏終了とともに涙があふれました。

そして表彰式をむかえ、緊張と不安でした。なかなか名前がよべないなか、「優勝は、和太鼓たぎり」と言われた瞬間とてもとても嬉しかったです。悔いのない最高の大会でした。太鼓にであえたこと、ここまで一緒に頑張ってきた仲間達、技術以上に大切なことを教えてくれた川原先生、いつも支えてくれた保護者、応援してくれた人、全てに感謝です。ありがとうございました。

海外太鼓交流～ブラジル・台湾・アルゼンチン招請～

ジュニアコンクールには、13回目となるブラジルと7回目となる台湾のチームの出場に加え、3回目のアルゼンチンが特別演奏を披露しました。

ブラジルからは昨年7月に行われた「第13回全ブラジル太鼓選手権大会」のジュニア部門(14団体139名参加)で初優勝を果たした「源流太鼓」の12歳から18歳の男女11名と、引率9名の総勢20名が来日。台湾からは昨年10月に行われた「第7回台湾太鼓青少年選手権」(29団体322名参加)で3度目の優勝を果たした「葫蘆墩Smile太鼓團」の13歳から17歳の男女11名と、引率5名の総勢16名が来日。またアルゼンチンから「アカスーソ太鼓」の10歳から16歳の男女10名と、引率5名の総勢15名がジュニアコンクールに参加することとなり、特別演奏を披露しました。

3月16日(木)、ブラジル・アルゼンチンチームは神戸市内を見学し、夜には六甲山の夜景を楽しみました。17日(金)には会場に行き、成功祈願祭に参加。日本の伝統文化に触れ、みんな緊張していました。18日(土)にはリハーサルの後、台湾と前回優勝チームである「手取亢龍若鮎組」も加わった交流会を行いました。子供達は英語や日本語を一生懸命話しながら交流を深め、またお互いの出し物に大きな拍手を送り終始笑いの絶えない楽しい会となりました。

ブラジルチームはコンクールで、地元の出雲にある美しい川の源流を表現した「源流の音」を演奏、笛を使って鳥の鳴き声を見事に表現していました。台湾チームは「流星」を、アルゼンチンチームは「絆」を特別演奏として披露、3チームがそれぞれ課題曲とともに、練習の成果を見事に発揮し、観客から大きな拍手を受けていました。

緊張で張り詰めた結果発表では、台湾チームは第4位、ブラジルチームは第5位に入賞し、海外における太鼓演奏の技術向上が感じられました。

メンバーたちは一様に「日本のジュニアチームのレベルの高い演奏や礼儀正しさ、またスムーズな舞台進行を目の当たりにして驚くとともに感動した」、「自分達も益々がんばっていききたい」と話していました。

翌日20日(月)、台湾チームは大阪市内を見学し、21日(火)に帰路につきました。



(ポートレース浜名湖での演奏風景)

ブラジル・アルゼンチンチームは20日(月)、神戸市内にある「海外移住と文化の交流センター」に於いて長谷川先生の特別講習会を受講。終了後に同会場にて太鼓演奏を披露しました。交流センターの中では、ブラジルへ移民した当時の資料を見学、職員の方から説明を聞くことが出来ました。ブラジルへの移民船は神戸から出ていることもあり、子どもたちは「自分の家族の歴史を知ることができてとても良かった」と喜んでいました。21日(火)、午前中に神戸市から浜松市に移動し、午後、ブラジル人学校にて約200人の生徒を前に演奏を披露しました。22日(水)、午前中にブラジル人学校、午後からはポートレース浜名湖にて太鼓演奏を披露しました。レース場での2回の演奏で延べ150名のお客様に、子どもたちの演奏を楽しんでいただきました。その後、浜松から御殿場へ移動するバスの中から、夕日に照らされる富士山を見ることができ、みんな大喜びでした。23日(木)、日本財団を表敬訪問し、日本財団笹川会長と太鼓財団塩見理事長より歓迎と励ましのお言葉をいただきました。日本の印象や感想などの質問を受け、メンバーは緊張しながらも1つ1つ言葉を選びながら答えていました。

「太鼓演奏はもちろんのこと、あこがれの日本で素晴らしい体験をし、一生忘れない良い思い出となった。皆様に感謝したい。学んだことを次につなげて、これからもがんばって太鼓を続けていきたい」と元気に日本を後にしました。



(交流会の様子)



(日本財団笹川会長、太鼓財団塩見理事長と記念撮影
撮影：日本財団)

<特別講習会を兵庫県神戸市で実施>

ジュニアコンクールの翌日3月20日(月祝)、兵庫県神戸市「神戸酒心館」と「海外移住と文化の交流センター」において特別講習会を実施いたしました。この講習会はジュニアコンクール出場団体を対象としており、今回は青山高等学校和太鼓部“葵”(三重)、奈良県立奈良朱雀高等学校和太鼓部和太鼓秋篠(奈良)、山城ノ國和太鼓鼓粋(大阪)、別所ともえ太鼓会ジュニアチーム(兵庫)の国内4チームと、源流太鼓(ブラジル)、アカスーソ太鼓(アルゼンチン)の海外2チームが参加しました。ジュニアコンクール課題曲、自由曲を中心に指導を受け、受講生は今後の練習にぜひ活かしていきたいと話していました。

- 国内チーム講師 古屋 邦夫
安江 信寿
松枝 明美
- 海外チーム講師 長谷川 義



(青山高等学校和太鼓部“葵”・三重)

以下、受講生からいただいた感想文を掲載いたします。

奈良県立奈良朱雀高等学校和太鼓部和太鼓秋篠(奈良)

講習会で基礎を教えてもらい、小さい音を出す時、

もっと打つ場所などに意識して丁寧にしないと駄目だなと思いました。今回の講習会で教えてもらったことを今後の練習でも取り入れてもっと良い演奏ができるようにこれからも頑張っていきたいと思いました。

山城ノ國和太鼓 鼓粋(大阪)

課題曲と自由曲を聞いてもらって自分達の注意点を教えていただきました。皆の音を聞いて合わせることで、一つの音になれるということを学びました。そして、チーム全体も一つになれるということが分かったので忘れないようにしておきたいです。

別所ともえ太鼓会ジュニアチーム(兵庫)

コンクールに出場し、たくさんのチームを見ることができました。そして、優勝チームと私たちの違いを考えました。そのことを踏まえて講習会に挑みました。講習会では太鼓のたたき方を指摘いただきました。今までできていたと思っていたことが実際はできていないことに気づかされました。

第11回全九州・日本太鼓ジュニアコンクールを開催!

2016年12月18日(日)全九州太鼓連合主催の「第11回全九州・日本太鼓ジュニアコンクール」が、九州7県より40チームが参加して福岡県飯塚市「イヅカコスモスコモン」で開催されました。2012年度より、全九州太鼓連合と台湾太鼓協会の協議により双方のジュニア大会で優秀な成績を収めたチームが、互いのジュニアコンクールに出演することとなり、台湾の準優勝チーム「勁太鼓」が特別出演いたしました。レベルの高い争いを制し、「和太鼓たぎり」(福岡)が優勝を果たしました。結果並びに審査委員は、次の通りです。

<結果>

優勝:和太鼓たぎり(福岡)

準優勝:橘太鼓響座「一」(宮崎)

第3位:日向の国「響」(宮崎)

第4位:太鼓研修センター「響」(宮崎)

第5位:神洲八幡巫太鼓(福岡)

特別賞:三代目源流少年隊(大分)、大和太鼓保存会鼓天童子(佐賀)、おおむら太鼓連くじら太鼓一番隊(長崎)、志布志ちりめん太鼓(鹿児島)、火の神乙女太鼓爽(鹿児島)、諫早天満太鼓(長崎)、荒尾太鼓(熊本)、日南太鼓衆「爽空」(宮崎)、南洲太鼓保存会「魁」(宮崎)、鹿児島県立鹿屋農業高等学校和太鼓部(鹿児島)、風浪勝運太鼓(福岡)
日本太鼓財団特別個人賞:鞭馬一星(福岡・一心太鼓)

<参加団体> 40団体

福岡8、大分3、長崎5、佐賀5、熊本7、宮崎7、鹿児島5

特別出演:「勁太鼓」(第7回台湾ジュニアコンクール準優勝チーム)

規程により地区コンクールに関する基準を満たした団体の中から最上位の団体が全国大会出場権を得られますが、今回は「三代目源流少年隊」(大分)の出場が認められました。

<審査委員>*敬称略

古屋邦夫(日本太鼓財団技術委員長)*審査委員長

江頭啓輔(三菱ふそうトラック・バス(株)特別顧問)

日下部徳一郎(元北九州市消防音楽隊長・指揮者)

山部泰嗣(和太鼓奏者・倉敷天領太鼓)

松崎達郎(和太鼓・チャッパ奏者)



(特別個人賞 鞭馬一星・福岡・一心太鼓)

< 第58回日本太鼓全国講習会(福岡) >

2月11・12日(土日)、全九州太鼓連合、福岡県支部主管による全国講習会を久山町の「レスポアール久山」にて実施いたしました。土曜日は福岡県では珍しく雪となりましたが、全国14都府県に加え、台湾・シンガポールを含めた214名が受講しました。開会式では財団塩見理事長と全九州太鼓連合長谷川名誉会長、久山町佐伯副町長から励ましと歓迎の挨拶があり、講習会が始まりました。受講生たちは寒い中、一生懸命講習に励んでいました。

○基本講座講師 総合指導 古屋 邦夫
3級基本講座 安江 信寿
4級基本講座 若山 雷門
5級基本講座 田中 俊己

○専門講座 御諏訪太鼓講座
助六太鼓講座
源流太鼓講座

松枝 明美
今泉 豊
長谷川 義

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。
1級検定 31名受験 31名合格(13名認定)
2級検定 30名受験 30名合格(16名認定)
3級検定 11名受験 11名合格・認定
4級検定 37名受験 37名合格・認定
5級検定 56名受験 56名合格・認定



(源流太鼓講座の様子)

< 第73回日本太鼓支部講習会(岡山) >

1月14・15日(土日)、岡山県支部主催による支部講習会を岡山市の「サウスヴィレッジファーマーズハウス」にて実施いたしました。5都府県から32名が受講しました。開会式では岡山県支部山部支部長と当財団大澤常務理事から励ましと歓迎の挨拶があり、講習会が始まりました。受講生たちは一生懸命、講習に励んでいました。

○5級基本講座 古屋 邦夫(総合指導)

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。
5級検定 27名受験 27名合格・認定



(5級基本講座の様子)

< 第74回日本太鼓支部講習会(東京) >

2月4・5日(土日)、東京都支部主催による支部講習会を港区の「日本財団ビル」にて実施いたしました。10都県から59名が参加しました。開会式では東京都支部渡辺支部長と当財団大澤常務理事から励ましと歓迎の挨拶があり、講習会が始まりました。初日に塩見理事長も駆けつけ受講生たちを激励しました。

○基本講座講師 総合指導 古屋 邦夫
3級基本講座 松枝 明美
4級基本講座 三浦 一浩
5級基本講座 渡辺 洋一

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。
3級検定 19名受験 19名合格・認定
4級検定 11名受験 11名合格・認定
5級検定 23名受験 23名合格・認定



(3級基本講座の様子)

「パラ駅伝 in TOKYO 2017」に富岳太鼓竜神組が出演

3月12日(日)、駒沢オリンピック公園陸上競技場において「パラ駅伝 in TOKYO 2017」が開催されました。

この駅伝は8区間を障害者6名と健常者のランナー3名(伴走者1名を含む)でチームをつくりたすきをつなぐ駅伝で、14都県から17チーム153名が参加しました。主催の日本財団パラリンピックサポートセンターから太鼓団体の派遣要請をうけ、「富岳太鼓竜神組」(静岡)を派遣いたしました。当日の入場者は11,200人にのぼり、富岳太鼓竜神組の勇壮な応援演奏に、観客と出場者は大きな拍手を送っていました。



各種会議を開催

第58回運営委員会並びに第58回技術委員会が1月11日(水)に東京にて開催され、次の事項が審議、承認されました。

<運営委員会・技術委員会>

1. 「2016年度事業の実施状況について」

- ①日本太鼓ジュニアコンクールについて
課題曲、出場団体に関して審議し、決定すると共に、抽選により出場順番を決定した。
- ②第20回日本太鼓全国フェスティバル実施報告について
- ③第1回大学太鼓フェスティバル実施報告について
- ④第18回日本太鼓全国障害者大会の実施報告について
- ⑤第31回国民文化祭・あいち2016太鼓の祭典の実施報告について
- ⑥第13回日本太鼓シニアコンクールの実施報告について

2. 「2017年度事業の実施について」

- ①2017年度事業の実施について
 - ②日本太鼓助成金交付事業について
・2017年度助成金交付35事業のうち、申請のあった41事業についての説明の後、審議に移り、すでに2回以上実施している事業と太鼓団体が単独で実施する事業を不採択とし、全35事業が承認された。
- #### 3. 日本太鼓資格認定事業について
- ・公認指導員の昇級について
田中浩照氏(北海道)、秦野智徳氏(北海道)、高戸風香氏(東京)が2級公認指導員に、矢ヶ崎勇健氏(長野)が3級公認指導員に認定された。

理事会並びに評議員会が3月9日(木)に東京にて開催され、次の事項が審議、承認されました。

<理事会>

1. 2017年度事業計画及び収支予算について
2. 評議員会の開催について
3. 職務執行状況について

<評議員会>

1. 2017年度事業計画及び収支予算について
2. 役員(監事)の選任について
3. 職務執行状況について

2017年度日本太鼓助成金交付事業決定のお知らせ

運営委員会において、次の35事業が承認されました。報告書受理後、助成金20万円が交付されます。

<支部講習会> 6事業(海外含む)

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 4月22・23日(土日)第75回日本太鼓支部講習会(北海道旭川市) | 8月5・6日(土日)第78回日本太鼓支部講習会(岐阜県郡上市) |
| 5月27・28日(土日)第76回日本太鼓支部講習会(長崎県波佐見町) | 9月23・24日(土日)第79回日本太鼓支部講習会 |
| 6月17・18日(土日)第77回日本太鼓支部講習会(鹿児島県霧島市) | (北海道岩見沢市) |
| 7月8・9日(土日)台湾太鼓講習会(台湾桃園県) | |

<教職員研修会> 6事業

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 6月11日(日)宮崎県教職員太鼓研修会(宮崎県川南町) | 8月予定 栃木県教職員太鼓研修会(栃木県宇都宮市) |
| 8月7日(月)北海道道西教職員太鼓研修会(北海道砂川市) | 9月予定 北海道道北教職員太鼓研修会(北海道旭川市) |
| 8月11日(金)群馬県教職員太鼓研修会(群馬県前橋市) | 11月23日(木祝)長野県教職員太鼓研修会(長野県岡谷市) |

<一般事業> 23事業(海外含む)

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 5月28日(日)ホトトギス河辺もりっと「太鼓祭り」(秋田県河辺町) | 11月12日(日)大太鼓一本打ち全国大会in登別(北海道登別市) |
| 7月9日(日)第26回東北太鼓フェスティバル(宮城県登米市) | 11月18日(土)日向の鼓動フェスティバル(宮崎県宮崎市) |
| 7月15・16日(土日)第25回雷童マースクール(富山県立山町) | 11月26日(日)第6回東北太鼓ジュニアコンクール(秋田県湯沢市) |
| 7月22・23日(土日)全九州和太鼓マースクール(大分県由布市) | 11月予定京都府支部設立20周年記念フェスティバル(京都府南山城村) |
| 7月30日(日)ブラジル太鼓ジュニアコンクール&フェスティバル(ブラジルのサンパウロ州) | 12月3日(日)第1回全道・日本太鼓ジュニアコンクール(北海道岩見沢市) |
| 7月30日(日)群馬県太鼓連合15周年記念演奏会(群馬県藤岡市) | 12月3日(日)日本太鼓ジュニアコンクール岡山県大会(岡山県倉敷市) |
| 7月30日(日)「保呂羽の峰に響け!」太鼓の祭典(秋田県横手市) | 12月3日(日)日本太鼓の響宴(大阪府貝塚市) |
| 8月26・27日(土日)東京都支部サマミナー(東京都大田区) | 12月17日(日)第12回全九州・日本太鼓ジュニアコンクール |
| 10月1日(日)いわて太鼓フェスティバルin西和賀(岩手県西和賀町) | (宮崎県宮崎市) |
| 10月8日(日)第6回全九州ジュニア海外派遣交流事業(台湾苗栗県) | 12月予定 宮の太鼓まつり(栃木県宇都宮市) |
| 10月8日(日)台湾太鼓フェスティバル・ジュニアコンクール(台湾苗栗県) | 2018年 |
| 10月8日(日)多摩太鼓祭り20周年記念事業(東京都府中市) | 2月4日(日)第10回関八州太鼓まつり(神奈川県海老名市) |
| 10月9日(月祝)佐賀県和太鼓KIDSフェスティバル(佐賀県佐賀市) | |

事務局だより

第59回日本太鼓全国講習会(福島県郡山市)

期日:2017年6月24日・25日(土日)

会場:郡山市片平ふれあいセンター(〒963-0211 福島県郡山市片平町字町南7-2 TEL. 024-951-5730)

主催:公益財団法人日本太鼓財団

総合指導 古屋 邦夫(技術委員会委員長)

基本講座

3級基本講座 鈴木 孝喜

4級基本講座 渡辺徳太郎

5級基本講座(初心者講座) 渡辺 洋一

申込先:(公財)日本太鼓財団

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2

TEL. 03-6229-5577 FAX. 03-6229-5580

締切:2017年6月2日(金) 当日到着分まで有効

専門講座

御諏訪太鼓講座(複式単打法) 松枝 明美(長野)

大太鼓講座(単式単打法) 山内 強嗣(静岡)

秩父屋台囃子講座(複式複打法) 高野 右吉(埼玉)

講話 浅野 昭利((一財)浅野太鼓文化研究所理事長)

お問合せ:日本太鼓財団福島県支部

事務局長 国分忠一 TEL. 090-6680-0777

第76回日本太鼓支部講習会(長崎県波佐見町)

期日:2017年5月27日・28日(土日)

会場:波佐見町総合文化会館(〒859-3701 長崎県東彼杵郡波佐見町折敷瀬郷2064番地 TEL. 0956-85-2034)

主催:日本太鼓財団長崎県支部

<お問合せ・申込先>

5級基本講座(初心者講座)

日本太鼓財団長崎県支部 事務局長 脇坂和紀

古屋 邦夫(技術委員会委員長)

〒859-0165 諫早市小長井町小川原浦1467番地

TEL. 090-8394-2048 FAX. 0957-34-2899

第77回日本太鼓支部講習会(鹿児島県霧島市)

期日:2017年6月17日・18日(土日)

会場:霧島市立高千穂小学校(〒899-6603 鹿児島県霧島市牧園町高千穂3855-55)

主催:日本太鼓財団鹿児島県支部

<お問合せ・申込先>

5級基本講座(初心者講座)

日本太鼓財団鹿児島県支部 事務局長 前田茂樹

古屋 邦夫(技術委員会委員長)

〒890-0065 鹿児島県鹿児島市市元2-7-17亀田トシ子様方

締切:2017年5月31日(水) 当日到着分まで有効

TEL. 090-1929-8137 FAX. 0994-37-5483

訃報

2012年4月より当財団の監事を務めていただきました池田靖氏が2017年1月24日にご逝去されました。(享年71)池田氏は弁護士としてご活躍の傍ら、当財団が公益認定を受けた時より監事としてご尽力をいただきました。ここに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本太鼓の普及、発展のために永年ご尽力いただきましたくしろ蝦夷太鼓保存会の塚原鼓童氏が2016年12月19日にご逝去されました。(享年84)塚原氏は北海道初の1級公認指導員に認定され、北海道の太鼓界発展にご尽力をいただきました。ここに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本太鼓の普及、発展のために永年ご尽力いただきました大森太鼓愛好会の本藤栄純氏が2017年1月25日にご逝去されました。(享年81)本藤氏は秋田県太鼓連盟常任理事を務められ、2014年の国民文化祭の際に企画委員長としてご尽力いただきました。ここに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本太鼓の普及、発展のために永年ご尽力いただきました古関観音太鼓同好会の松浦隆氏が2017年2月10日にご逝去されました。(享年66)松浦氏は山梨県太鼓連盟常任理事として財団の事業にご尽力いただき、2014年山梨県身延町で開催した全国講習会には多大なお力添えをいただきました。ここに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

公益財団法人 日本太鼓財団

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 Tel. 03-6229-5577 Fax. 03-6229-5580

URL:<http://www.nippon-taiko.or.jp> Email:info@nippon-taiko.or.jp

